

# 男性の 不妊治療と 俺流子育て

トークショー・スペシャルゲスト

## ダイヤモンド☆ユカイ氏

1962年、東京生まれ。1986年、伝説のロックバンド「RED WARRIORS」のボーカルとしてメジャーデビュー。人気絶頂期の1989年、わずか3年の活動で日本武道館公演を最後に解散。その後、「ダイヤモンド☆ユカイ」として、ソロ活動を開始する。現在は音楽活動を中心に舞台・映画・バラエティ番組に出演するなど幅広く活動する。私生活では47歳にして初めてパパになる。2011年に自身の不妊治療と夫婦の愛と葛藤の日々を綴った「タネナシ。」を発売し大きな反響を呼んだ。同年11月には双子の男の子も誕生し、現在1女2男の父親。著書:「タネナシ。」(2011)、「育爺。」(2013) CD:「Respect」(2012)、「RESPECT II」(2013)、「ムクロジの木」(2014 NHK みんなのうた)



### トークショー

総合保健福祉センター  
2014年11月9日(日)

#### 男性の不妊治療のきっかけは?

**ユカイ:**現在の妻とお互いファミリーを持つべく再婚した。その時、妻は30代後半で不妊検査をしたいとのことだったので妻の付き添いで病院に行った。診断の結果、妻は大丈夫だったので、医師からご主人もと勧められ検査を受けたら「無精子症です」と言われて頭が真っ白、ショックで言葉も出なかった。

**前田:**「無精子症」には、精子自体が無いものと精子が有っても精巣から通ってこれないものがあります。

**ユカイ:**自暴自棄になった後、無精子症について調べてみたら、精巣に精子が有れば子どもを授かる可能性があることと分かり、覚悟して不妊治療の一つ「顕微授精」を始めた。

**前田:**「顕微授精」は卵子に精子を直接注入します。

**ユカイ:**男の手術はたいしたことなくて、女性が採卵するほうが大変。2回の失敗で落ち込み、子どもを授からない未来も考えようと二人で話し合った。3回目、男性不妊の権威である先生のところで治療を受けて授かった。

#### 不妊治療をへてお子さんを授かったお気持ちは?

**ユカイ:**嬉しいのなんのって。以前にも増して、妻の体を大切に、車も安全運転するようになった。妊婦健診にもすすんで付いて行った。生まれた娘にはバイ菌を近づけないように注意して大事に育てた。

**霜村:**私の子どもは小1、3歳、1歳。子どもを望んでからは時間がかからなかったが、それでも妊娠が分かった時の感動はすごかったです。

**ユカイ:**不妊は女性のせいとされがちだが、原因は男女半分ずつ。男性不妊をもっと知らなければいけない。たとえば、女性も大卒で働いて30代で成功して32歳ぐらいに子どもを持つとすると35歳から40歳になる。もしパートナーが無精子症だったら、子どもが出来ないまま40歳を過ぎてしまう。

**前田:**妊娠率もかなり下がります。

**ユカイ:**不妊治療には授かる可能性があるし、挑戦したら悔いは残らない。知らずに無駄な時を過ごすのはもったいない。まずすすんで検査を受けに行く。夫婦一緒に立ち向かえば、夫婦間の結束にもなる。「彼が検査を受けてくれない」という悩みを聞くと、検査は痛くもかゆくもないからぜひ受けてほしい。

#### ユカイさん流の子育てとは?

**ユカイ:**子育ては大変なことも多いけれどとても楽しい。苦労して授かったからだけじゃなくて、とにかく可愛くて仕方がない。週の半分くらいは単身赴任だったり、妻とのケンカもあるけど、楽しみながらやっている。子どもは4歳の娘と3歳の息子2人で三つ子みたいだ。男の子がやんちゃになってきて今が一番大変。

**霜村:**うちは3歳の二男1人だけでもすごい暴れっぴり。3歳くらいが3人だったら想像を絶しますね。

**ユカイ:**きょうだいっていいよね。俺はひとりっ子でそうい